

月刊島民

中之島

Vol.30 2011 1/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

写真と人の
物語。



ナカノシマ大学

平川克美×平松邦夫

大阪から考える
「移行期的混乱」

申し込み受付中!

写真と人の物語。

モ

ノクロ写真専門の貸し暗室である「B工房」。ここでは撮影したモノクロフィルムを持ち込んで、自分で焼くことができる。暗室は5ブースあり、客のほとんどは、来店するとすぐにブースの中へ。写真と向き合う至福の時間なのだろう。

カメラと言えばデジタルが当たり前になった今、ゴトーさんがアナログかつ、モノクロ専門を掲げるには理由がある。再生ボタンひとつですぐに確認できるデジタルとくらべて、アナログカメラは機械で焼いた後に数種類の溶液に浸す工程を経て、ようやく写真と対面することができる。さらに「焼き方や使う紙ひとつでも変わるし、露光時間の長さでも、もちろん仕上がりは変わる」複雑で繊細なもの。それでも「簡単じゃないけどコツコツやっていくところに面白さがあるし、引き伸ばしてから出てくるまでのワクワク感がデジタルにはないもの。今って一枚一枚焼こうにも、人に時間がない。だから暗室にはデジタルが失ってしまった独特な時間の流れがあるんですよ」とゴトーさんは語る。

最近では、デジタルカメラで写真に興味を持ち、その後にアナログカメラ

「写真表現の一つの手段であるモノクロを、次の世代につなげたい」

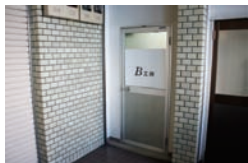
B工房
ゴトーマサミさん



に回帰し、モノクロを始めた20代の若いお客さんも増えてきているそう。それまでデジタルでしか撮ったことのなかった人が、暗室に入ってから自分で焼いて、できあがりを見たときの『うわあ!』と驚く姿を見るのが好きなんです」とゴトーさん。最後にモノクロ写真の鑑賞法を聞くと「何といっても白と黒の美しさ。カラーよりもリアリティがない分、見るものの想像力を掻き立てる」とのこと。いただいたポスト

B工房

セルフとは言っても初心者にはゴトーさんが丁寧に教えてくれる。時間のない人や、展覧会用などゴトーさんに代わりに焼いてもらうことも。セルフ、代行に関わらず、前日までの完全予約制なのでご注意ください。暗室利用料は1時間1,500円。☎06-6946-1541 1:00PM～9:00PM 不定休



トカードには「モノクロは、創造色」と書いてあったが、「モノクロは、想像色」でもあるのかもしれない。



何種類もの溶液や器具、赤色灯だけの薄暗い空間、時計が時を刻む音…。ゴトーさんの言うとおり、確かに暗室には独特な時間の流れがあるようだ。



取材の折、工程説明のためにゴトーさんが焼いてくれたもの。「そのへんの公園の木」も、焼き方や明暗にこだわりぬくことで、見違える作品になる。



「映像は記憶を運ぶ乗り物なんです」
NPO法人 remo
松本 篤さん
「過去と未来をつなぐのが私の使命」
そば切り てる坊
山西輝和さん

中之島を歩いていると、カメラを持った人によく出会う。
けれど中之島と写真との関わりは、撮る・撮られるの関係だけではない。
カメラや写真にさまざまな形で携わる人たちの物語が、実はたくさんあったのだ。

取材文／服部和香 金哲志（本誌）

昨 年の10月某日。北浜の「そば切りてる坊」で、今からおよそ80

年前に撮影された映像の上映会が行われた。映し出されたのは、難波橋、中央公会堂、大阪府庁舎、梅田・心斎橋間の地下鉄工事、新世界など、大正時代を象徴する貴重な風景ばかりだ。上映会を開催した店主の山西輝和さん（右）は、「大祖父の故・安田辰治郎が撮影した9.5ミリフィルムを公開することで、当時の大阪の生活文化を知ってもらいたかった」と話す。し



かし当初は、戦前に撮影されたフィルムの取り扱いに四苦八苦、上映会実施は暗礁に乗り上げたかに思えた。

そこへ救世主が現れる。大阪を中心に活動している「AHA」という映像アーカイブ集団だ。個人が記録した映像やそれにまつわる記憶の価値に注目し、映像の収集・公開・保存・活用に取り組んでいる。「普通は僕らから呼びかけて映像を提供して



フランス・パテー社の9.5ミリの手回し映写機（通称パテー・ベビー）。9.5ミリフィルムは、日本では1920年代後半～1930年代半ばまで流行した。



昭和初期の中央公会堂。映像と映像の間には、モダンな文字のキャプションが入っていた。安田辰治郎氏の光る演出に、参加者からは感嘆の声が上がった。

NPO法人 remo
【記録と表現とメディアのための組織】
☎06-6686-5757（不定休）
info@remo.or.jp

そば切り てる坊

☎06-6231-8885 11:15AM ~
2:00PM 6:00PM ~ 9:00PM（水・土曜の夜は予約のみ）日・祝休

※上映イベントの次回開催日程は未定だが、春頃を予定している。

もらいますが、今回は山西さんから積極的にアプローチいただいたんです」とAHAの企画者であるNPO法人remoの松本篤さんは嬉しそうに振り返る。

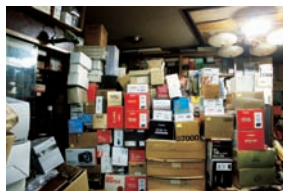
上映会当日、スクリーンに釘付けになった参加者らは「戦前のフィルムが今見られるなんて奇跡やわ！」「変わりゆく大阪を撮影している時って、きつと興奮と期待が入り混じっていたんやろうね」など、声はずませて当時の大阪に思いを馳せた。

公開できたフィルムはわずか4巻で、まだ数十巻のフィルムがデジタル化を待っている。「大祖父からの貴重な資料を、後世に引き継いでいきたい」と山西さんが熱っぽく語ると、「将来的には上映会を定期的に開催し、地域の資源として広く還元できれば」とほほえむ松本さん。2人の視線の先は重なりながら、まっすぐ未来を向いている。

淀 屋橋の交差点から土佐堀通を東へ歩いて行くと、見るからに年季の入った店構えが見えてくる。背の高いビルに囲まれながらも渋い存在感を放つのが中古カメラ専門店の「ハママラカメラ」。昭和44年（1969）、西天満のアメリカ領事館近くで創業し、大阪万博に関わる新御堂筋の拡幅工事の影響もあり、淀屋橋へ店を移した。現店主は父親の跡を受けて店に立つ浜村正弘さん（写真右）。業者間でのセリなどもある中、「ハママラカメラ」の商品の大半は、夕刊紙やスポーツ新聞に出す「カメラ買い取ります」という広告で集めたもの。「大事に使われてきたものが多いし、こうした方がモノが良いんですわ」と浜村さん。そうやって集められた膨大な数のカメラや



レンズ付き、ボディのみなどいろいろ。商品には値札がついていないものも多く、気になったものがあればまずは浜村さんに聞いてみるべし。



店内には各メーカーの商品箱がうず高く積み重ねられ、掘り出し物が見つかるかも!? と来店者をわくわくさせてくれる。



レンズ、三脚などは、ショーウィンドウや店内だけでは納まりきらず、店の外にまで溢れ出している。まるで道具市のような雰囲気なんでも見つかるような気にさせてくれるのだらう、すでに生産が中止されている古い機種の間い合わせ電話が後を絶たないそうだ。店ではデジタルカメラも扱うが、やはりアナログカメラを求めてやって来る人が中心。カメラと言えば昔はサラリーマンたちが憧れる高級品で、若い頃に欲しかったモデルを買いに来る年配客も多いそうだ。「給料が月に2000〜3000円で、カメラは8万円とかの時代もあったからね。中には『40年越しでやっと買った』なんて人もいました」。

減ったとは言え、創業当時から通ってくるなじみの客もいるという。「ここに来てる時が一番体の調子が良い、と言ってくれる人もいますよ」と浜村さん。なるほど、カメラ好きにとっては楽園のような場所なのかもしれない。

ハママラカメラ

永和ビルの1階にある中古カメラ専門店。商品数は「分からへん」ぐらい。現在は浜村さんとう一人のスタッフである高山光雄さん（上写真左）が二人三脚で。中古カメラの買い取りも随時受け付けている。☎06-6231-6112 10:30AM〜7:30PM 土・日・祝休



『大阪府写真帖』が発売されたのは大正3年（1914）のこと。陸軍の軍事演習を視察するために大阪を訪れていた大正天皇に、大阪の街の様子を知ってもらうべく、天皇陵や神社仏閣、官公庁や大企業の建物の写真を集めたアルバムが編まれた。もちろんこれは天皇陛下だけのものだが、その普及版として出版されたのが『大阪府写真帖』だった。

中を見れば、まだ堂島にあった頃の大阪市役所の仮庁舎や、人が溢れる北浜の株式取引所（現・大阪証券取引所）、拡張される前の御堂筋に面した日本銀行大阪支店など、中之島界隈の写真も多い。「大正元年に街びらきされた新世界をはじめ、写真はどれも明治末期〜大正初期のもの。このすぐ後に、『大大阪』と呼ばれる時代がやってくるが、その前夜、『プレ大大阪』の様子がよくわかる重要な資料」と、版元である不二出版に復刻を提案した橋爪紳也氏は語る。

実は橋爪氏が貴重資料の復刻に関わるのは初めてではない。2007年には、昭和初期の京阪神の建築の一大アーカイブである『近代建築画譜』を復刻した。「他にも復刻したい本はまだまだたくさんある」という橋爪氏が復刻にこだわる理由は何なのだろう。「どちらの本も大学院生の頃からよく見ていた。街や建築を勉強する上では欠かせない本で、これらの上にその後の研究も成り立っている基本的文献なんです。今や入手しにくくなってしまい、図書館にもない場合が多い。今後の研究の進化のためにも、こうした重要な資料を手にとって見られる機会を増やしたかったんです」



監修を手がけた橋爪紳也氏と、不二出版の白井かおりさん。

デジタルアーカイブも広まりつつあるが、ディテールまでしっかり見るには、やはり写真が一番だ。「30歳の頃に『近代建築画譜』を古本屋で買った時は十何万円したなあ」とつぶやいた橋爪氏。復刻に力を入れるのは、自らも研究者であるがゆえの親心でもあるのだろう。



（右から）明治31年に撮られた大阪市役所の仮庁舎／見るからに熱気が溢れる大阪堂島米穀取引所／日本銀行大阪支店の写真には「壮麗類少」の解説も

『大阪府写真帖』を復刻せよ。



『大阪府写真帖』という古い書物がある。大正初期の大阪の街を写した写真が、多数収められた貴重な文献だ。古本屋でもなかなかお目にかかれないこの本が、昨年11月末に復刻発売されることとなった。監修を手がけたのは、橋爪紳也大阪府立大学教授だ。

取材文／大迫力（本誌）

『大阪府写真帖』
大正3年、大阪府が発行した写真集。近代化の途上にある大阪の街の様子が手に取るようにわかる。図書館や公共団体に買ってもらうべく復刻されたが、もちろん個人でも注文可能。B4横判・上製・186ページで20,000円也。問い合わせは不二出版まで。
☎03-3812-4433

写真館

カメラ好きの人たちが、思い思いに写真を撮った。
写真に写ったものを見れば、一人ひとりの中之島への想いがある。
取材・文／大迫 力(本誌)

「ハタラキザカリ」



カメラと歩く写真好き 黒川直子さん

肥後橋の会社に勤める黒川さんは、1年ほど前にカメラ教室に参加して以来、写真を撮るようになった。その時に使ったのが、フィルム特有のやわらかい風合いの写真が撮れる「NATURA」。今回の写真もすべてNATURAだが、撮影方法は一風変わっている。小さな三脚を付けて地面に置き、ファインダーを覗かずにシャッターを押すのだ。「一生懸命に働いている人の姿はカッコイイ。その姿を見つけたら、チャンスを逃さないように瞬時に撮りました」。働く人たちが写る様子は確かに中之島だが、アングルのせいもあり、どこともなく可愛いらしい。「どんな風に撮れているのかなあ」とドキドキしていた黒川さんも、出来上がりを見て思わず笑みがこぼれた。

黒川さんは、撮ったものを常安橋のたもとにある「モグカメラ」でプリントしてもらっている。現像士の小倉さんは、写真を撮るきっかけになった教室の講師も務めている。この撮影方法も小倉さんから教わったのだそう。「撮りながら、自分の興味があるものが見えてきました」と黒川さん。写真は自分の心の中の鏡でもあるようだ。

モグカメラ 黒川さんも通う写真現像所。ナチュラも販売。
☎06-7504-9459 <http://mogucamera.net/index.html>

Photographing DATA

📷 カメラ「フジフィルム ナチュラ」

ノンフラッシュでその場の雰囲気壊すことなく自然な写真を撮ることができる。プリントすると、フィルムカメラならではのやわらかい風合いに仕上がる。

📷 撮影方法

持ち運べるミニ三脚を付け、こんな風に地面に置いて撮影。「気配を消して思い切っ
てさっと撮る」のがコツ。

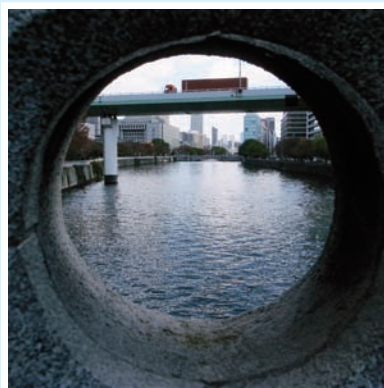
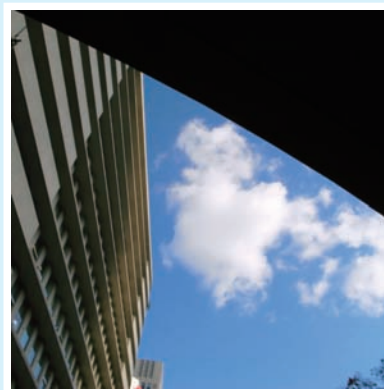
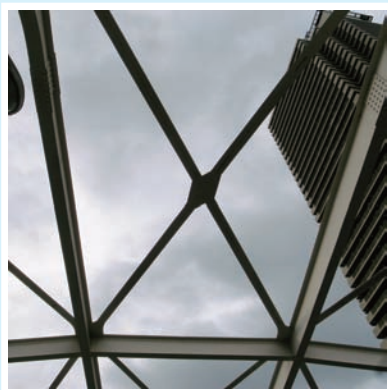


📷 中之島らしさ

「中之島で働く人の姿に、学生の頃から憧れていました。空が広いし、人口密度もちょうどいい。その魅力は、今回の撮影で改めて感じました」

中之島

「なかのしまのすきま」



島民フリークのプロカメラマン 浜田智則さん

雑誌・広告・スタジオ撮影などで活躍する浜田さんは、大の島民ファン。西区にあるご自宅から、自転車で中之島を通して撮影に向かうことが多い。そんな時に気づいたのが今回のテーマである“すき間”だった。「川のない街で育ったから、川が大好き。だから橋の上を通ることが多いんですが、その時にアーチや欄干の間から川や空を眺めると面白いんですよね」。普通なら失敗作になりそうだが、それをあえて探してみると、中之島が急に小さなジオラマのように見えてくるから不思議だ。画面をわざと正方形にすることで、“すき間”感が強調されている。

仕事以外でも毎日写真を撮る浜田さん。ただし時間はかけず、自転車に乗りながら撮ることがほとんどだ。「スナップなんだから、その時に目についたものを撮るという感じで良いと思うんです」。また、使うのはデジタルだが、撮影数はだいたい36枚に収める。「フィルムで撮ってた頃感覚ですかね。1日1本撮れば満足です」。スナップは、スナップなりに撮る。プロらしい、写真と長く付き合っていく方法かもしれない。

大阪カメラマン日記 浜田さんが日々のスナップなどを公開しているブログはこちら。
<http://blog.goo.ne.jp/osaka-fotos/>

Photographing DATA

📷 カメラ「リコー GR DIGITAL 2」

小学生の時に父さんに買ってもらって以来のリコーファン。「ズーム機能もない単焦点のカメラなんですが、レンズが良い。きれいに写ります」。



📷 撮影方法

「普通の長方形の画面だと、端にものが写りすぎて間延びしちゃう」。正方形にすることで、まるで窓から覗き込むような印象の写真に。

📷 テーマ選び

「意識してないんですが、後で見直すと、その日ごとに写すものって決まってるんですよ。スナップも、お題を決めて撮るのも良いかもしれない」。

「中之島ディスカバリー」



お得意は工場&廃墟の写真 小林哲朗さん

「小さい頃から機械が大好きで。ラジカセとかファミコンとかをよく分解して遊んでました」という小林哲朗さん。6年ほど前、初めてコンパクトデジカメを買った時に、とにかく何かを撮りたいと訪れたのが、ネットで見つけた「廃墟」だった。以来、廃墟や工場、巨大な建造物などを撮ることに熱中。強烈な印象を与える写真はブログで公開するとたちまち人気となり、雑誌主催のフォトブログコンテストでグランプリを受賞。『廃墟ディスカバリー』として写真集化された。

その小林さんを中之島にお招きし、写真を撮ってもらった。超広角や超望遠のレンズを駆使した写真のコントラストの効いた色合い、飛び出してくるような迫力は本当にこれが中之島かと疑ってしまうほど。高速道路が折り重なるように走る風景は、小林さんがシャッターを押すと「未来都市」に変わった。「出てきた場所を振り返って見たり、上を見上げたり。通り過ぎている景色を注意して見てみるのがコツですね。日常の風景を、どれだけ違う視点から「発見」できるか？ 小林さんの目には中之島はぜんぜん違う街に映っているのだろう。



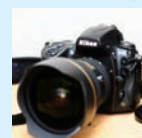
『廃墟ディスカバリー』 ¥2,310 / アスペクト

小林さんの作品をまとめた初の写真集は重版する人気で、続編も発売された。また、工場の写真ばかりを集めた『工場ディスカバリー』も好評発売中。

Photographing DATA

📷 カメラ [Nikon D700・D300]

超望遠、超広角などレンズは全部で12本ほど所有。「撮りたい絵を実現してくれるレンズと出会うことも大事ですね」と小林さん。



📷 撮影方法

三脚でしっかり固定。露光時間は平均3〜4秒、長い場合は8秒ほど。また「建物を撮る場合は水平が取れていないと話になりません」。

📷 撮りやすい時間

今回の撮影は午後8〜10時頃。空気が澄み、風のない日が好ましい。一番良いのは冬の明け方だそう、これからは絶好のシーズン到来。

(財)大阪21世紀協会
事業活動に関するお知らせ

関西・大阪文化力会議2011

～成長する東アジアと日本の文化戦略～

ヨーロッパでは、かつて重工業で栄えた都市が文化を重点戦略に位置付け、都市再生と文化立都を競い合っています。一方、東アジアにおいては、韓国のように文化を国家の重点戦略として掲げ、力強い成長を遂げています。

グローバル化による画一化がますます進展するなかで、東アジア各地域の文化の多様性こそが、新たな価値を創出し、産業競争力を高め、人々の豊かな生活に貢献する源泉です。今後のアジアの発展と安定のために日本にも更なる文化力の向上が求められています。

しかるに、日本の国家予算に占める文化の比率はわずか0.13%、フランスの0.86%、韓国の0.93%と比較しても極めて低く、関西においては自治体の財政難から文化予算は壊滅的な状況に追い込まれ、地域の豊かな個性が失われつつあります。

本会議では、中国の著しい成長を目前にして、韓国の具体的な文化戦略を参考にしつつ、東アジアの安定と発展の為に日本が選択すべき文化戦略と関西が果たす役割を探ります。

2011年1月18日(火)
10:00AM～5:30PM
グランキューブ大阪(大阪国際会議場) 10F

主催／(財)大阪21世紀協会

共催／大阪国際フォーラム

協賛／(株)大阪国際会議場

後援／(社)関西経済連合会、大阪商工会議所、(社)関西経済同友会
参加費／無料

お申し込み／お名前・ご住所・お電話番号・FAX番号、
eメールアドレス、参加を希望されるプログラム(基調講演・分科会)を
明記の上、1月12日(水)までにFAXまたはeメールにてお申し込み下さい。

FAX: 06-6222-3730 e-mail: bunka@rogo.jp

なお、協会ホームページでもご案内しております。

(<http://www.osaka21.or.jp/>)

お問合せ／(財)大阪21世紀協会 事業チーム 文化力グループ

[担当] 乾・森 ☎06-6942-2004

※なお、第1分科会と第2分科会は並行して開催しますのでどちらかをお選び下さい。

※また、本申込により収集された個人情報、当協会が主催する事業、
イベントのご案内以外の目的には一切利用致しません。

プログラム(予定)

基調講演 10:00AM～1:00PM

エズラ・ヴォーゲル(ハーバード大学名誉教授)

李 御寧(イ・オリョン／大韓民国元文化大臣)

分科会 2:15PM～5:30PM

●第1分科会:東アジアと共にすすむ日本の文化戦略を探る

コーディネーター／萩尾 千里(大阪国際会議場社長)

発言者／エズラ・ヴォーゲル

王 敏(法政大学教授)

佐々木幹郎(詩人)

佐藤茂雄(大阪商工会議所会頭・京阪電鉄CEO)

●第2分科会:関西の文化力向上と戦略的発信

コーディネーター／堀井 良殷(大阪21世紀協会理事)

発言者／李 御寧

千田 稔(奈良県立図書館情報館長・

国際日本文化センター名誉教授)

鳥井信吾(関西経済同友会 歴史・文化委員会委員長・

サントリーホールディングス副社長)

蓑 豊(兵庫県立美術館館長)

インテリジェントアレー専門セミナー

「都市文化論～文化によるまちおこし活動の理論と実践～」開講迫る!

開催日時／2011年1月～3月 隔週木曜日夜 7:00PM～9:00PM 全6回

会場／キャンパスポート大阪(大阪市北区梅田 1-2-2 400号 大阪駅前第2ビル4階) ☎06-6210-3620

参加料／6講座通し18,000円(1講座ごとの受講:4,000円/講座)

※申し込み方法の詳細などは関西社会人大学院連合のホームページに掲載しています。(http://www.kansai-auae.jp/top_seminar/)

◎文化によるまちおこし、都市の活性化につながる文化の創造に興味をお持ちの方は是非ご参加ください。

●第1回 1月13日(木)

河島伸子(同志社大学経済学部教授)

「欧米諸国の文化政策から学べること」

●第2回 1月27日(木)

小島多恵子(サントリー文化財団主任研究員)

「文化が地域を創る—サントリー地域文化賞受賞者の活動事例から」

●第3回 2月10日(木)

初谷 勇(大阪商業大学総合経営学部、同大学院地域政策研究科教授)

「都市文化政策と地域ブランディング—当事者の役割」

●第4回 2月24日(木)

山崎 亮(株studio-L 代表取締役)

「市民による公共空間のマネジメントについて」

●第5回 3月10日(木)

藤原 明(リソナ総合研究所新規事業戦略部プロジェクト・フェロー)

「『経済』と『文化』の戦略的協働による地域活性化」

●第6回 3月24日(木)

堀井良殷(大阪21世紀協会理事長)

「大阪の町人文化に学ぶ：懐徳堂や心学の精神とまちおこし」

問合せ／財団法人大阪21世紀協会 事業チーム(森) ☎06-6942-2004 FAX: 06-6942-5945



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2011年
2月講座

「大阪から考える『移行期的混乱』」

対談／平川克美 (リナックスカフェ代表取締役社長) 平松邦夫 (大阪市長)

昨年9月に発売され、早くも3刷となった平川克美氏の『移行期的混乱』。「経済成長神話の終わり」という副題が示すとおり、経済成長は必須であるとする専門家たちの主張に疑問を投げかける。「経済成長は望ましいこと。でも今私たちが直面しているビジネスの現場を考えれば、成長せよなんて簡単には言えない」と平川氏。人口の推移や出生率などの数値を見つめ得た結論は、「成長戦略ではなく、



1950年東京生まれ。幼なじみの盟友・内田樹氏との共著「東京ファイティングキッズ」でもおなじみ。

経済成長は絶対に必要か？
『移行期的混乱』の著者と一緒に、
大阪、そして日本の経済が迎える
「有史以来初の事態」を考える。

成長しなくてもやっていける戦略がないことが問題」というものだった。

平川氏の講演の後には平松邦夫大阪市長も加わり、二人の対談をお送りする。本書でも触れられているように、働くことへの価値観や企業社会のありようの変化は大阪でも見られる現象だ。東京よりもいっそう経済的な落ち込みが激しいと言われる大阪は、どのようにしてこの「移行期的混乱」を乗り切っていけばいいのか。二人と一緒に考えてみたい。

『移行期的混乱』
¥1,680／筑摩書房



困難であっても大阪にとって経済成長は重要なポイント。平松市長は平川氏の考えをどのように受け取るのか。

募集要項

「大阪から考える『移行期的混乱』」

講師／平川克美 平松邦夫
日時／2011年2月18日(金) 7:00PM～(開場6:30PM～)
会場／大阪市中央公会堂 小集会室
受講料／1,500円 定員／150名
主催／ナカノシマ大学事務局
協賛／関西電力株式会社
協力／大阪21世紀協会 筑摩書房 R25(アールニジュウゴ) 大阪市

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学2月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



サミットらしく最後はがっちり握手で締め。左から橋爪先生、枚方市の高橋克茂理事、寝屋川市の市川克美ブランド戦略室長、交野市星のまち観光協会の佐藤義也会長。

11月15日(月)

「京阪沿線文化サミット in中之島」

◎追手門学院 大阪城スクエア

講師／橋爪紳也 (大阪府立大学教授)

開業100年を迎えた京阪電鉄沿線の街と文化を再発見し、文字通り「線」につないでいこうと開かれたナカノシマ大学11月講座。「京阪沿線学」を提唱する大阪府立大の橋爪紳也先生をコーディネーターに、沿線3市が連携へ向けて初会合を持った。福祉と教育、豊かな歴史遺産を誇る「京街道の真珠」枚方市。「ワガヤネヤガワ」を看板に独自のブランド戦略を進める寝屋川市。「無名」と謙遜しつつも「セタ伝説のまち」一本

槍でパワフルに迫る交野市。愛と笑いあふれる地元自慢大会は、「京阪沿線文化」の確立へたしかな一歩を感じさせた。

まずは25年前から京阪沿線に注目してきた橋爪先生による基調講演。「沿線文化」といえば阪急ばかりが語られますが、鉄道各社は切磋琢磨しながら郊外へ文化を広げてきたんです。京阪なら枚方の菊人形の開催、ロマンスカーの導入、香里遊園地や住宅地の整備、成田山不動尊の誘致…。雑誌『京阪グラフィック』や

古い絵ハガキ、設計図面などのお宝を披露しつつ、沿線開発史をひも解いた。

知られざる沿線ネタを集めてきた橋爪先生が呼びかけるのは地元の再発見。「阪神間学は1920～30年代を再評価する『阪神間モダニズム』という本をきっかけに盛り上がった。京阪沿線だって同じことができるはず」。たとえば、京阪間モダニズムの研究会や展覧会・出版、大学や博物館との連携、車内や駅のミュージアム化…方法はいくらでもある、と。

— れを受けた各市のプレゼンとクロ
— ストークは三者三様の個性にあふれ、大いに盛り上がった。舟運と宿場町の歴史に着目したイベントや街づくりを進める枚方市。モノではなく「人」を資源に、香里園のブランド化などに取り組む寝屋川市。「天の川 セタまつり」を核に、「ロマンあふれる支線に」と意気込む交野市。淀川やセタプロムナードなど、線路以外に街を結ぶ「線」も浮上し、各市間でラブコールを送ったり送られたり。次の開催（あるのか!?）が楽しみな初サミットとなった。



地域学の専門家として多くの事例を見てきた橋爪先生は「横のつながりと継続的な取り組みを」と話す。

ナカノシマ大学
ついに東京進出!

ナカノシマ大学×講談社 現代ビジネス

『アースダイバー』で 読み解く 東京・大阪



対談／中沢新一×釈 徹宗
進行役／平松邦夫(大阪市長)
2011年2月8日(火)
◎講談社 講堂

昨年4月に行われた中沢新一・釈徹宗の両氏による対談「大阪アースダイバーへの道」。その第2弾が舞台を東京に移して開講される。現在、『週刊現代』で連載中の「大阪アースダイバー」について、中沢氏は「大阪は、東京とはぜんぜん違う都市の成立のしかたをしている」と語る。両者の違いはどこにあるのか？ 大阪の歴史・宗教の専門家でもある釈氏も交え、たっぷりと語り尽くす。また、パネリスト兼進行役として平松邦夫大阪市長も登場。またとない顔ぶれで語られる、新しい東京、大阪の姿。どうぞ期待!

◎お申し込み・詳細はナカノシマ大学webサイトで!

21世紀の懷徳堂プロジェクト 2011年1月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。※講座の問い合わせは、それぞれのお店まで

9	日	11:00AM~ 2:00PM 4:00PM~ 7:00PM	「ボーボー屋料理教室 食卓の冬仕事」中東ゆうこ(ボーボー屋店主) 参加料:3,800円(お土産付き) 冬の保存食・柚子大根を仕込み、お持ち帰り! 我が家の味を手作りで~美味しい鍋の秘訣もお伝えします。	会場 F
11	火	7:30PM~ 9:00PM	「石原正一のヨミすぎ!~古今東西名作朗読会~」石原正一(役者・作演出家) 受講料:1,500円 古今東西の名作を参加者全員で読みまくる。具体的に配役に分けて、名作文章の世界を楽しんでいただきます。	会場 A
15	土	2:00PM~ 3:00PM	「日本のたしなみ」その1「マナークラフト・折型(ORIKATA)」水引金封作り」土田祐子(日本伝統文化研究家) 参加費:1,575円 定員:6名(予約制) 「御結婚祝」や、外国ゲストへの「カード・エンベロブ」に、自分手作りの「Orikata」を使うとクール!	会場 D
16	日	0:15AM~ 1:15PM 2:00PM~ 5:00PM	「トリ・スクール 戦後の日本美術」岡山 拓(美術家) 受講料:2,500円(1ドリンク付) 展覧会図録を参照しながら、ゆっくりお茶をしながら美術史や各種ムーブメントについてお話をします。	会場 E
16	日	2:00PM~ 4:00PM	「健康講座~自分のカラダを自分で治す」合田光男(国際東洋医療専任講師) 受講料:2,000円 身体の不調を手技、つば療法、金粒療法、東洋医学経筋治療により整える方法を学びます。冷えを解消しましょう。	会場 C
23	日	1:30PM~ 6:30PM (途中休憩有り)	「うさぎのになぎょうをつくりましょう!」IRIIRI(になぎょう作家) 参加費:¥3,675(お茶とお菓子付き) 定員:先着6名様(予約制) 布製うさぎの人形をつくりまわります。はじめての方でも大歓迎です。持ち物:糸切りハサミ	会場 D
23	日	2:00PM~ 5:00PM	「新春!ガリガリ絵はんこ教室」カキノジン(絵はんこ作家) 参加料:3,500円(材料費+お茶とお菓子) カキノジン・はんこも話芸も超一流!自分の彫りたいものを2cm角内にデザインし、「彫る気」とご持参下さい。	会場 F
25	火	7:30PM~ 9:00PM	「柄谷行人著『世界史の構造』を読む」山納洋(common cafe) 参加料:1,000円 『世界史の構造』を参考に互酬、略取と再分配、商品交換など交換様式の変遷という視点から世界史を捉えます。	会場 A
29-30	土・日	2:00PM~ 3:00PM	「ペーパークラフト・ホエール&ウォッチング教室」injan/和田恭佑(ペーパークラフト作家) 参加費:大人1,260円・子供840円 定員:6名(予約制) 紙でクジラと双眼鏡をつくり最後にウォッチングします! キット化されているので簡単にかわいく作れます。	会場 D
29	土	6:00PM~ 7:30PM	こけだま教室「新春の草盆栽を作りましょう~」まつもと(こけだまと緑の店「三日豆」店主) 参加料:3,800円(材料費+晩ごはん) 小さな鉢に草もの植物を植えて、こんもり苔を貼ります。こっそりハゼの木も。春の芽吹きを待ちわびてみませんか?	会場 F
30	日	11:00AM~ 1:00PM	「マクロビオティックサロン」豊村恵子(料理研究家) 受講料:2,000円(料理費込み) 定員:8名 「ネリKitchen」の豊村さんが、「切り干し大根料理」のつくり方をご紹介します。	会場 B

A common cafe
大阪市北区中崎西1-1-6 吉村ビルB1F
☎06-6371-1800
<http://www.talkin-about.com/cafe/>
B 中崎町サロン文化大学
大阪市北区鶴野町
お問合せ・お申し込み:
<http://nakazakicho-u.blogspot.com/>

C フレイムハウス
大阪市中央区淡路町1-6-4
☎06-6226-0107
misalele39@gmail.com
<http://www.katana.cx/~fureimu/>
D タビエスタイル
大阪市中央区南船場4-4-17 B1
☎06-4963-7450
<http://www.5f.biglobe.ne.jp/~tapie/>

E 欧風食堂 ミリバル
大阪市西区立売堀1-12-17 artniks bld.
☎06-6531-7811
<http://www.artniks.jp/millibar/>
F ボーボー屋
大阪市西区北堀江1-14-21 鳥かごビルディング2F
☎06-6531-7827
<http://www2.odn.ne.jp/ippuku-popo/>



大阪大学
21世紀
懷徳堂

大阪大学21世紀懷徳堂

●Handai-Asahi中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

19・26	水	3:30PM～ 5:00PM	「木簡を読む～飛鳥時代の木簡」市 大樹(大阪大学大学院文学研究科准教授) 受講料3,150円(全2回) 講師が直接整理に携わった、奈良県明日香村から出土した飛鳥時代の木簡を取り上げ、木簡研究進め方や日本古代国家の実像についてお伝えします。
22・29	土	10:30AM～ 12:00PM	「隕石からのメッセージ～ダイヤモンドとプレソラー粒子」松田准一(大阪大学大学院理学研究科教授) 受講料3,150円(全2回) 第1回は隕石中のダイヤモンドの起源について。第2回目は、プレソラー粒子からわかる太陽系形成以前の様子について、最新の研究をご紹介します。

会場／大阪大学中之島センター 申し込み・問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/>

●大阪大学21世紀懷徳堂i-spot講座 大阪大学が大阪市と共同で淀屋橋odona2階「アイ・スポット」で開催する講座です。

25	火	6:30PM～ 8:00PM	「あなたなら食べる?食べない?『クロスロード』ゲームで考える食の安全～」加藤 悟(大阪大学大学院工学研究科准教授)・織田朝美(同担任研究員) 定員:30名 クロスロードというゲームを使って、いろいろな立場を想定し、食の問題を一緒に考えます。食の安全に関する正しい知識を共有しましょう。
2/1	火	6:30PM～ 8:00PM	「つくりながら考えるコンピュータとのつきあい方～コンピュータ仕掛けのおもちゃや発明品をつくってみませんか?」森 秀樹(大阪大学大学院人間科学研究科助教) 定員:20名 コンピュータを埋め込んだモノづくりを楽しみながら、コンピュータとのつきあい方について考えてみたいと思います。

会場／アイ・スポット 受講料／無料 申し込み・問い合わせ／アイ・スポット ☎06-4866-6803

●大阪大学×大阪ガス アカデミクッキング 「専門分野の講義」&「料理実習」で「学問するココロ」が実践的に身につきます。

2/3	木	6:30PM～ 9:00PM	「ドクター石蔵の男のええかげん料理講座<リターンズ>」石蔵文信(大阪大学大学院医学系研究科准教授) 熟年夫婦円満の秘訣は、男性の食の自立にあります!まずは食事面から男性が自立をはかってみませんか。また、男性更年期でお悩みの方は、料理という新しいチャレンジで、ストレスをうまく乗り切るきっかけをつくりましょう。
------------	---	-------------------	---

会場／大阪ガスクッキングスクール千里 受講料／1,500円 定員／24名 申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里
※1月7日(金)からweb申込受付開始 ☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。2011年1月のラインナップはこんな感じ。

12	水	7:00PM～ 9:00PM	アートカフェ「死とイメージ」 定員:30名 自分の死を語ることの不可能性と、他者の死から逃れることのできない必然性、その狭間で死に対するイメージが生まれます。ちょっと不思議な「ムカサリ絵馬」を紹介しながら、死とイメージについて考えましょう。
14	金	7:00PM～ 9:00PM	シアターカフェ「演劇が教室にやってくる!」 定員:30名 学校に俳優やダンサー等芸術家が行くことが、盛んになってきました。多くの子どもたちのワークショップに携わってきた柏木陽さんを迎え、実際のワークショップの現場の様子や、これからの可能性について話します。
18	火	6:30PM～ 8:30PM	サイエンスカフェ／カフェ・オンザエッジ「免疫の不思議:さあ、科学者と免疫を語ろう」 定員:70名 病原体が入ってきた時に最初に働くのが自然免疫、病原体を記憶して2度目には素早く反応するのが獲得免疫です。自然免疫の機構を明らかにした審良静男さん、獲得免疫を研究する黒崎知博さんと、免疫について話しましょう。
19	水	7:00PM～ 9:00PM	プロジェクト・ミーティング「大阪に、中之島に必要な美術館を考える0」 定員:40名 準備中や現在進行形の様々なプロジェクト関係者と共に、文化芸術の課題について語り合い、ネットワーク構築の場として開かれるプロジェクト・ミーティング。今回は大阪市立近代美術館の未来について対話を繰り広げます。
28	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「『職業の教育的意義』とはなにか」 定員:50名 「教育の職業的意義」が大学において声高に叫ばれていますが、では職業に就くことにはどのような教育的意義があるのでしょうか? 賃金や承認の獲得にとどまらない仕事の意義について、参加者全員で考えてみましょう。

会場／アートエリアB1 参加費／すべて無料 開場／それぞれ開始30分前から 問い合わせ／[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



1980年4月、私は医学部の6回生になり、長い学生生活もついにあと1年で終わりを迎えることになった。まもなく満25歳。ふつうならとくに社会に出て、それなりの常識も身につけていなければならない年齢だ。しかし、中之島で自由な学生生活を送っていた私に、そんなものはまるでなかった。

それでも、最終学年となると、さすがに気を引き締めなければならない。卒業試験と国家試験が控えていたからだ。

卒業試験はこれまで通りカンニングで何とかなるとしても、国家試験はそうはいかない。だから、この1年間は勉強に専念すると固く心に決めてスタートした。しかし、私の勉強の遅れは、思った以上にひどかったようだ。

6回生になると、卒試対策として、予測される試験問題の解答集を全員で分担して作ることになっていた。私にも何問か割り当てられたが、そこで私の無知は大いに暴露された。心臓の先天性疾患の問題で、『ASD』心房中隔欠損』などと書いたが、これは医学生にすれば、だれもが当然知っていることで、たとえば『ベ

ートーベン』音楽家』と書くようなものだった。「おまえの解答はレベルが低すぎて、読むのが時間のムダ」とクラス中から不評を買った。それでもめげずに私は5年分の遅れを取りもどすべく猛勉強し、夏休みも予備校並みのスケジュールで机に向かった。

11月、いよいよ卒業試験が始まった。麻酔科を皮切りに、2月末までに全部で19科目。内科や外科は筆記試験と口頭試問の2本立てだ。必死で勉強したものの、もちろん完璧にはほど遠い。ときにはお笑いネタのような珍回答もあった。たとえば、精神科の口頭試問で、「てんかんの薬で、ミオクロニー発作に有効なものは何か」と教授に問われたとき、私はまったく答えが浮かばなかった。それで「えーと、えーと」と繰り返していると、いっしょに試験を受けていた友人らが、「そうそう」という感じでうなずく。答えは「エトスキサミド」という薬で、私がうろおぼえて記憶をたどっているように見

えたのだ。

とっさに「すみません。エトまでしか思い出しません」と頭を下げたら、教授は、「ま、ええやろ」と通してくれた。

卒業試験の最大の難関は、年明け最初の整形外科だった。我々の1学年上で、2人の留年者が出たからだ。それまでは、卒業試験は毎年、全員合格が通例だった。教授たちは、自分が落とさなくても、デキの悪い学生は国家試験がふるいにかけられるだろうと、鷹揚に構えていたのだ。ところが、新任の整形外科のO教授が超堅物で、点数の足りない学生を落としたのだ。今から思えば当たり前のことだが、当時は卒業試験で学生を落とすとは、何たる暴挙という感じだった。

しかし、そんなことを言ってもはじまらない。私は年末も正月も返上で勉強を続けるつもりだった。ところが、元旦から急に身体がだるくなり、熱を計ると38・5℃。咳も激しく、ひどい

中之島ふら青春記 久坂部羊 卒業試験と 国家試験



口内炎もできて、おせちも食べられなくなった。近所で開業している叔父に往診してもらおうと、診断は「マイコプラズマ肺炎」。

その後も病状は悪化して、勉強どころの騒ぎではなくなった。私はベッドの中で悶え苦しみ、結局、2週間寝込んでしまった。そのため、整形外科をはじめ、皮膚科、産婦人科の試験を受けることができなかった。

私は焦った。本気で学生を落とすO教授の試験を、はじめから追試組で受けなければならぬのだ。つまりは一発勝負。試験は口頭試問で、そこでミスれば卒業できない。私は3カ月後に結婚を控えていたので、そのようなプレッシャーだった。

2月末の追試は、異様な緊張状態の中で行われた。しかし、O教授は本試験を病欠した私に、少し甘い点をつけてくれたようだ。それで私を含め、全員がなんとか卒業できた。

それから約1カ月、いよいよ本番の国家試験を迎えた。試験は2日間で、内科系のA問題、外科系のB問題、臨床診断のC問題に分かれていた。

医師国家試験は、合格率が90%前後で、それだけ見ると簡単な試験のように思われるかもしれないが、決してそんなことはない。膨大な医学知識の中から出題されるので、運悪く知らない問題が重なると、大学の成績がいい者でも落ちる場合があるからだ。ある意味、ロシアンル



ーレットのなスリルがあった。

試験科目は、必須として内科、外科、小児科、産婦人科、公衆衛生。加えて毎年変わる選択が放射線科、麻酔科、整形外科、泌尿器科の合計9科目だった。だから、私が受けた年の医師免許取得者は、国家試験に出なかった眼科や耳鼻科はろくに勉強していない者が多いと思う（私だけかもしれない）。

試験範囲が膨大なので、各大学では出題される問題の予想が盛んに行われていた。我々のクラスでも国試対策委員会が作られ、予想問題の情報がいくつも流れた。

試験の当日、私は会場へ向かう途中で、神戸大学に行った高校の同級生といっしょになった。国家試験は資格試験なので、受験生は互いにライバルではない。むしろ同志なので、積極的に情報を交換し合う。神戸大の友人は、C問題に「蝶形紅斑（頬に蝶の形に出る赤い皮疹）」が出ると教えてくれた。

「これは確率が高いぞ。ある大学の女子医学生が、出題者の教授からベッドで聞き出した情

報やから」

私は試験会場に着いて、さっそく同級生にその情報を伝えた。果たして、テストには子どもの蝶形紅斑の写真が出た。C問題は出題数が少ないので、1問の比重は大きい。私は見知らぬその女子医学生に心より感謝した。

試験が終わると、会場の出口で、さっそく国家試験用の予備校が解答を配っていた。試験終了とほぼ同時に刷り上がっていたから、事前に問題が洩れていたにちがいない。私たちは恨めしく思いつつも、解答をもらって喫茶店で自己採点をした。

合格ラインは全問の6割の正解。私は一喜一憂しながら採点したが、なんとか合格できそうだった。ただし、配られた解答は絶対的なものではなく、解答を作成した予備校によって、いくつか答えがちがっていた。最終的な解答は、厚生省（当時）が持っているが、異論が出るのを恐れてか、公表しない。だから、試験のあとはしばらく新解釈による別解答が電話連絡でまわってきたりした。自己採点で7割以上ある者は余裕だったが、6割ぎりぎりの者は戦々恐々としていた。

発表は試験の1カ月半後。正式には厚生省の支局に張り出されるが、その日の朝刊にも掲載された。紙面に自分の名前を見つけた私は、ホッとすると同時に心に誓った。これで試験と名のつくものは、もう生涯受けないぞ、と。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える

契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

ただ今、発売中の『メフィスト』2010 VOL.3に、短編「ご主人さまへ」を発表しています。

恵まれた主婦に届いた怪レターにまつわるホラーです。

「また飲みに行きましょう」ってのが現代ビジネスマンの社交辞令。酒を酌み交わしながら人脈を強固にするというのが狙いだが、これは時間の無くなった現代人のコンビニエンスな発想の成れの果て。かつてのニッポンでの社交の基本は「今度、一緒に食事しましょう」「キミ、メシでも一緒にいかがかな？」ってのが全盛だった頃がある。実はこっちの方が何となく特別感があつて威厳があるような気がして、僕は気に入っている。

大正時代、この大阪倶楽部でも、共に食べる文化は大切にされていたようで、2階にある大食堂は今も威風堂々とした趣きで会員たちを迎えてくれる社交場だ。「定食」と呼ばれるコースは、和洋折衷の正真正銘の「ニッポンの洋食」。ここで会員たちはランチやディナーを会員や身内の者と共に食し、社交を深めてきたのである。

大 阪倶楽部では恒例の午餐会（毎月、講師を招いて、昼食と共に講演を聴く事ができる一番人気の定番催事）は、この大食堂を中心に行われている。会員はいつでも利用できるし、会員同伴なら一般の人でも何人でも利用できるパブリックスペース。会

Will you join us? 中之島に「入会」しませんか?

取材・文／石原 卓（本誌）



メインがビフカツのスープ付き社員定食(2,100円)をオーダー。スープは席まで注ぎに来てくれた。人品骨柄を測るのが「社交」の目的。背広を着て行くのが基本だろう。

「メシを食う」という社交。

大阪倶楽部が館内見学会を開催!

普段は会員以外には公開されていない大阪倶楽部の内部を見学できる貴重な機会。

詳細は大阪倶楽部ホームページまたは☎06-6231-8361まで。

日時／2月19日(土)

①10:00AM～11:00AM(見学会のみ)

②11:30AM～1:30PM(見学会後に昼食つき)

(見学会のみは無料、昼食希望者は2,500円。

事前申し込みが必要)

定員／各15名

応募締め切り／1月15日(土)

◎お申し込みは「島民」と件名に書き

jimukyoku@osaka-club.or.jpにメールで。

員限定紳士倶楽部の中の、いわば最も開かれたスペースである。

取材に訪れた日も、会員らしき初老の紳士と、彼の会社の社員だろうか、若きビジネスマンが大先輩の言葉に耳を傾けながらナイフとフォークを走らせている。初老の紳士は割り箸を使っ

て同じメニューを食べていた。

ゆっくりとした時間の流れる昼下がりの大阪倶楽部では、今日も「メシ食う社交」が繰り広げられている。由緒ある調度品に囲まれて洋食を食べながらの時間は、今のコンビニエンスな時代にはなかなか得られない経験だ。超高級な星付きレストランつてのに飽きたなら、大阪倶楽部の大食堂に親しい友人を招いて共にメシ食うのも一興である。

また来てしまたわ、 あー中之島。 バックキー イノウエ

其の十五
町内という世界、
銭湯という土俵。
戸川万吉か。

「俺がこの街に住みついたのは、あれはほんのガキの頃だったぜ」という歌いだしの歌があった。30年以上前か。ダウンタウンブギウギバンド、宇崎竜童の歌い方や声にしがれたな、あの頃。

子供の頃、街は大きかった。町内だけでも世界があった。町内の中だけでもいろんな人がいたし、いろんな不思議もあった。そしてわずか50メートル向こうが隣の町、さらに見たこともないようないろんな人がいて、何をしているのかよくわからないことがわすれか隣の町内なのに山盛りあった。大通りの向かいには隣の小学校、もう全然違う世界だった。隣の小学校の奴がたまに俺のホームグラウンドの銭湯なんかに来たら「英語でも話しよるんちゃうか」と思うくらいだった。それほど子供の頃は町内が、学区が世界だった。なんなんだろ、あの感覚。

今の子供たちにとっても街は大きいのか、町内という世界はあるのだろうか。本宮ひろしが描いた『男一匹ガキ大将』で網村が現れ、土佐源が現れ、俺の好き

な広島島の山崎が現れるところに怖さや妻さを感じるのだろうか。

エアコンの普及で窓や玄関がしまり、町内にも人が出歩かなくなった今、携帯を握りしめて目的地以外に目をやらなくなった人が行き交う街は低血圧になっている。人にかまわれない・かまわれないなら、目をキラキラさせて近くにきた奴の戦闘値をスカウターで分析する必要もない。今の街は様々な野獣が行き交うジャングルではなく、相手が見えない深海なのか。ほんまにこわいな。

俺は小学校の頃、最寄りの駅が七条という（出たな京阪）東山区の本町に住んでいた。京都はこの街でもそうだが、俺が住んでいた本町も職人さんが多かったように思う。手や指が固そうな大人がとて多かった。特に本町通は銭湯も多かった。3つの町内に1軒ぐらい銭湯があった。正面湯、つる湯、大黒湯。銭湯はいつも満員だった。会うのがイヤな先輩やコワイおっさんもいたけど、風呂を、銭湯を避けることはできなかった。しかも銭湯では裸、まる裸でイヤな先輩やコワイおっさんと向き合わなかつた。きついでしかし。今から思えば街の銭湯は過酷な場所だった。

そんな街の過酷な銭湯で垢を落としてきた俺がこうして垢みたいな日々を愛しく思うのは多分必然なんだろう。また今回も中之島に行けなかつたな。続く。

ばつきーいのえ 京都・錦市場の漬物店「錦・高倉屋」店主にして日本初の酒場ライター。雑誌『Meets Regional』などで名フレーズを量産中。近著『京都店特撰』が絶賛発売中。

西梅田で買う、見る、食べる

ブリーゼブリーゼ 2011年1月のイベントカレンダー

PARTY

1月2日（日）～1月31日（月）

※但し、「豚しゃぶ 佐くら」、「旬和席 うおまん」は2月28日（日）まで「ブリーゼブリーゼの新年会プラン」

■5階／和食「豚しゃぶ 佐くら」(☎06-6442-0910)
「ブリーゼコース」3,980円（税込）

「クラブハリエ」のバームクーヘンを食べて育った、今話題の滋賀県近江産の極上豚・藏尾ポークをふんだんに使用したコース。

■6階／中国料理「香港海鮮飲茶樓」

(☎06-6344-4188)「美肌美人コース」5,000円（税込）
美肌を意識した充実の内容。茶芸師によるパフォーマンスが人気の九龍茶もぜひ！ 男女問わず一番の人気コースです。

※ディナータイムのみサービス料3%加算

■6階／日本料理「旬和席 うおまん」(☎06-6343-6626)「長崎産 たっぷり鍋コース」(要予約)を、6,500円（税込）でご用意しています。

■33階／和食ダイニング「ジミダング バイ ナダマン」(☎06-4797-3311)
「エルミタージュプラン（飲み放題付き）」7,000円（税込）
90分の飲み放題付きプランは、幹事さん安心のポッキリ価格。プラス2,000円でシャンパーニュが飲み放題になるお得なオプションプランも。

※各店の詳細は、ぐるなびブリーゼブリーゼページで！

<http://brand.gnavi.co.jp/mall/breeze/>

BREEZÉ BREEZÉ
ブリーゼブリーゼ
<http://breeze-breeze.jp/>



SHOPPING

1月2日（日）～

「新春初売りバーゲン 初ブリ」

◎1月2日・3日のみ10:00AMスタート!! (9:00PMまで)

通常営業：物販11:00AM～9:00PM / 飲食11:00AM～11:00PM

※一部店舗は異なる

■「1月2日限定 ダブルでHAPPY LUCKY BAG!」

館内のショップでラッキーバッグ（福袋）をご購入いただいた方にもれなく1,000円分のブリーゼレストランご利用券をプレゼント！

PHOTO

1月15日（土）～30日（日）

BREEZÉ BREEZÉ×江口 薫
「mariennette ～full version～」

2009年秋に関西御苗場で発表した「mariennette」の続編とともに、「mariennette」シリーズの全作品「mariennette ～full version～」を一挙に展示いたします。



EVENT

1月30日（日）

「KOBE RESORT
WEDDING FAIR in OSAKA」

11:00AM～6:00PM 場所：1階メディアコート

「神戸メリケンパークオリエンタルホテル」のウェディングフェアがブリーゼブリーゼに登場！ブリーゼブリーゼ、神戸メリケンパークオリエンタルホテル、Lei wedding、シティリビングのコラボでドレスファッションショー、ビューティーセミナー、プレゼント抽選会など見て感じて楽しめるイベントが目白押し。



堂島川の上で輝く姿は、まさしく「宝石」。

水晶橋という美しい名前に魅かれる。大阪の橋のほとんどが場所や出来事にちなんで名前が付けられているが、水晶橋は地名から付けられたわけではない。名前の由来ははっきりしていないが、橋の上に灯る光とそれが水面に映しだされた風景が、水晶のような輝きを見せることからこの名前がついたと言われている。数多くある橋の中でも唯一、夜の風景から名付けられたという物語がロマンチックだ。

そんな名前にも劣らず橋そのものも美しい水晶橋だが、昭和4年（1929）の建設当時には橋ではなく可動堰（かどうえき）だった。土佐堀川にかかる錦橋とも対をなす可動堰として川の水量を調節していたが、昭和57年（1982）に法的にも橋となった。しかし、実はこのように可動堰として造られたことが水晶橋の美しさの秘密にもなっている。

可動堰は川の水量を調節するため「デインターゲート」と呼ばれる回転式のゲートを設けるが、その機構をおさめるためには通常の橋に比べて水面から高く造る必要がある。だから水晶橋は川から眺めた時に川幅に対して背が高く美しいプロポーションになっているのだ。堂島川にある多くの橋が、半分ほど水に沈んだ様子を見せる中、水



晶橋は一度階段を上ってから渡らなければならぬほど背が高く、その縦に長い立面がアーチを際立たせている。本体の大きなアーチと、その上に乗る9つの小さなアーチという2重の構造を取れるのも、立面の大きさがあるためだ。

そしてそれは夜の風景にも生きてくる。この2重のアーチの橋桁が岸から青白い光で照らされると、陰影がくつきりと浮かび上がり、重厚感のある豊かな表情を見せるようになるのだ。5つある橋脚には側面に出窓のようなしつらえで取り付けられた照明があり、橋の上に2つずつ乗せられた照明からは柔らかいオレンジ色の光が放たれ、重厚感のある橋桁とは対照的に軽快なリズムを生み出している。川面が穏やかな夜には、大きなアーチが水鏡にもくつきりと映し出され、円弧が合わさる形の巨大な無限大記号が2つ出現する（上写真）。それを小さなオレンジ光

中之島へ光を見に行く。
vol.7

水晶橋

取材・文/花村周寛
（ランドスケープデザイナー/大阪府立大学准教授）
取材協力/大阪市建設局
水都大阪・光のまちづくり企画推進委員会
関西電力株式会社



今月のスポットライト/

階段を上ったところにある照明灯。石造りの立方体を角度をずらしながら積み上げた上に、行灯のような照明がのる。華麗なアーチとはまた違う、ゴツゴツとしたシルエットが夜景のアクセントにもなっている。

が取り囲む風景が生まれる。

青白く光る重厚な橋の周囲に無数の小さな光がちりばめられた様子を、硬く冷やかな水晶のきらめきに重ね合わせるとは何とも洒落た風景の眺め方ではないか。水晶橋は大阪の夜に輝く宝石なのだ。

トウニン月報

2011年1月1日発行

昨年開催され、7300万人以上という史上最多の来場者数を記録した上海万博。日本が出展したパビリオンの一つ「日本産業館」で注目されたのが、壁面を上り下りするロボット「夢ROBO」だった。これは、大阪市淀川区の工業ロボットメーカーが製作、大阪出身の喜多俊之氏がデザインを手がけたもので、休みなく動く姿で一躍人気者となった。

その夢ROBOが大阪の街に凱旋中だ。場所は、京阪電車天満橋駅のすぐ近くにある京阪ビルディングの壁面。昨年12月10日のオープニングセレモニーでスイッチが入ると、ユーモラスに動き始め、今日も勤勉な姿を披露している。「元気な大阪」を発信してほしいという願いを託された夢ROBOの様子をぜひ見ていただきたい。（大迫力・本誌）



天満橋「夢ROBO」展示イベント / 日本産業館 総合プロデューサー 柳屋 太一
上海万博(2010年9月16日～2010年10月31日) 日本産業館にて展示 / Designed by Toshiyuki KITA / Produced by Muscle Corporation

夢ROBO

場所／京阪ビルディング北側（大川側） 西方壁面
大阪キャッスルホテル入口付近
日時／1月16日（日）まで 10:00AM～10:00PM

大阪大・京都大・神戸大の 連携シンポジウム

大阪・神戸・京都、3つの大学が連携して行うシンポジウムが開催される。4回目となる今回のテーマは「21世紀を『みず』と暮らす」。人と水との関係を理解し、かつての密接な関係を取り戻す方法を考える。シンポジウム

では、京都大学名誉教授で滋賀県立琵琶湖博物館前館長の川那部浩哉氏の基調講演をはじめ、後半には3大学の研究者や企業・行政の専門家が、農業・アジア・都市・風景・環境など複数の視点から水に

まつわる問題を提起し、ディスカッションが行われる。川に囲まれた中之島で行われるにはびったりのシンポジウムとなろう。（大迫力・本誌）



第4回大阪大学・京都大学・神戸大学連携
シンポジウム「21世紀を『みず』と暮らす」
日時／1月21日（金）1:00PM～5:30PM
会場／大阪大学中之島センター 10階
佐治敬三メモリアルホール
定員／150名（無料・申し込み先着順）
問い合わせ／大阪大学 企画部 広報・
社学連携事務局 ☎06-6879-7151
◎申し込み・詳細はシンポジウムのHPから。
<http://www.3univ.jp>

好評開催中！ 中之島アイス スケートリンク

先月からオープンしている「中之島アイススケートリンク」。オープニングセレモニーには、平松邦夫大阪市長のほか、トリノ五輪で金メダルを獲得したプロスケーターの荒川静香さんも参加し、盛大に



行われた。金・土曜は夜9時までオープンしており、ビルの夜景に囲まれながらのナイトスケートティングも楽しめるなど、ちょっと変わったシチュエーションでのスケートを楽しむこともでき、人気を集めている。2月末までの期間限定のため、気になっている人はお早めに。（大迫力・本誌）



中之島アイススケートリンク

期間2月27日（日）まで
営業時間／12:00PM～8:00PM
（金・土曜～9:00PM）
※入場受付はそれぞれ1時間前まで。
料金／大人（高校生以上）1,500円
子供（中学生以下）1,000円
貸し靴料300円 観覧券500円
※未就学児は保護者の同伴が必要。
保護者1名につき未就学児1名は無料。
お問い合わせ／☎06-7732-8888
（キーワードインフォメーション）

アーティストを応援する アート・アセンド・ブリー

昨年末、堂島のクラブ関西で大阪21世紀協会が主催する「アート・アセンド・ブリー」が開催された。この日は、大阪文化祭賞を受賞した箏の演奏家である片岡リサさん、そしてア・カペラグループのザ・タロー・シンガーズが登場し、それぞれに演奏や歌を披露した。その後に行われたパーティーでは、参加者と共にテーブルを囲み、交



樟葉はじめ物語^②

住みたくなるには
理由がありました。



上／ゴルフ場へと向かう道には毛足の長い草が冬でも青々と茂っていた。下／なだらかに続く北摂山地。とにかく空が広い。

河川敷のゴルフ場、 遠くに見える山々。 緑あふれる駅西側。

樟葉駅の上りの1番ホームから西を眺めると、目の前に北摂山地の山々が見えにに見える。写真は12月の初めごろ。ところどころに見える紅葉がアクセントになり、青空の下で美しく映えていた。そしてその上を、ゆつくりと雲の影が動いていく。ホームからこんなに大きな景色が見える駅も、少ないのではないだろうか。



1番ホームから西を眺めるとこんな風。クルマがたくさん駐まっているのはゴルフ場の駐車場。

樟葉と言えば真っ先に思い浮かぶのは、やはり駅前のKUZUHA MALLや住宅地、大学などだろうが、それらはすべて駅の東側。賑やかな駅前を抜け、線路の高架下をくぐって西側へ出ると、景色は一変する。そこは、淀川の広大な河川敷を利用したゴルフコースになっているのだ。



高架線路の防音壁に設置された看板。この高架をくぐって、西側へと出る。

「くずはパブリック・ゴルフコース」は昭和32年、京阪電車と住友グループの出資によって建設された。パブリックコースながら、昭和40年から平成2年まで26回にわたって「くずは国際トーナメント」を開催し、青木功や尾崎三兄弟、グレッグ・ノーマンらもプレーしたそうだ。以前は京阪電車の車内アナウンスでも、駅名に続いて「ローズタウン、ゴルフ場前」と言われていたというから、地元でも長らく愛されている場所なのだろう。

河川敷で過ごすという、 自然の恵み。

ゴルフ場を横目に見ながら、線路沿いを南へと歩いてみる。コースでは、リタイアして悠々自適といった風のシニアゴルファーたちがはつらつとプレーしている。小さな子供を連れた若いお父さんの姿も見え、地元の人たちの遊び場にもなっているらしい。河川敷

に沿った道では時折、犬を散歩させる人、ジョギングやウォーキングを楽しむ人たちとすれ違った。季節ごとに表情を変える河川敷の緑、そしてその背後に横たわる山々、のんびりと時間を過ごすには実に良い環境だ。

淀川の河川敷はゴルフ場以外に、整備されて河川公園になっているところも多い。樟葉から4駅ほど大阪寄りの枚方公園駅の西側も、野球場や芝生のグラウンドがある公園になっている。



「大阪湾まで約32km」の表示に川沿いであることを思い出す。それほど大きな河川敷が広がる。

歩きながら、以前、枚方市役所に勤める関東出身の方が、大阪について話していたことをふと思い出した。「大阪のように街の真ん中を川が流れているような都市は関東にはない。その素晴らしさをもっと実感しなければ」。考えてみれば、こんな風に河川敷で気持ちよく過ごせることも、確かに川や自然の恵みの一つに違いない。

取材文／大迫力 道田恵理子(共に本誌)

わたしと樟葉の物語。 枚方在住25年／家庭犬訓練士 松本治美さん



子供が小さい時には家から水着を着せて、自転車ですらかたパークのプールに遊びにいったものです。

「ひらかたパークの観覧車が家から見えるので、毎日見えています」と話すのは、自宅犬のしつけ教室「ハレーアメリカンドッグスクール」を運営する家庭犬訓練士の松本さん。しつけ教室は基本的に預り訓練で、無駄吠えや噛み癖などの問題行動も松本さんの手にかかればどんな犬でも数ヶ月で治る。「大切なのは決して叱らないこと、犬も人間も信頼関係が第一」だそう。自宅から歩いて5分の淀川河川公園は、松本さんにとっても大事な場所の一つ。朝晩の散歩や週末の飼い主さんへの飼い方指導など、「自宅の庭代わり」に使っているそうだ。「大切な場所だからきれいに使わないとね」と言われて回りを見渡すと、ゴミひとつなく、訪れる人たちのマナーのよさにも驚かされた。川や緑に溢れた生活を送れることに、そこに住む人たちが感謝していることの証しだろう。

「ハレーアメリカンドッグスクール」
(☎0728416737)

香里園
中之島へ25分

樟葉
中之島へ31分
三条へ24分

中之島線

京阪本線

京阪東
ロースタウン

宇治
中之島へ59分

地下鉄東西線

三條

柳

三條京阪

御陵

津大津

石山坂本線

石山寺

京阪御蔵山住宅地

ローズヴィレッジ
くずはII

中書島

宇治緑

ローズプレイス
京阪宇治

ザ・香里園タワー

交野線

私市

天満橋

京橋

ななつ橋

大江橋

渡辺橋

中之島

こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電鉄

シリーズ第4回
樟葉



くずはローズタウン周辺の航空写真



(太陽と緑と健康と)
 EAST
 ROSE
 TOWN
 京阪東ローズタウン

- 所在地／京都府京田辺市・八幡市
 ■開発面積／約161万㎡
 (京阪東ロースタウン全体計画面積)
 ■計画戸数／約4,500戸
 (京阪東ロースタウン全体計画戸数)
 ◆最寄駅／京阪電車「樟葉」駅下車・バス、
 JR学研都市線「松井山手」駅

※所要時間は目安です。時間帯等により異なる場合があります。

京阪グループが提供する住まいの情報
<http://www.keihan-kiss.co.jp>

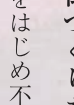
「樟葉」駅前からこれらのタウンへとつづく
 ぐずはアベニュー“は、枚方市が「道」に親しみと
 愛着をもってもらおうとつけられた愛称道路。
 駅と住宅地、そして人の暮らしとところをつなぐ
 アベニューとして、未来へとまっすぐ伸びています。

住まいを提案するなど、いずれも住む人の視点で考えた街づくりを展開しています。



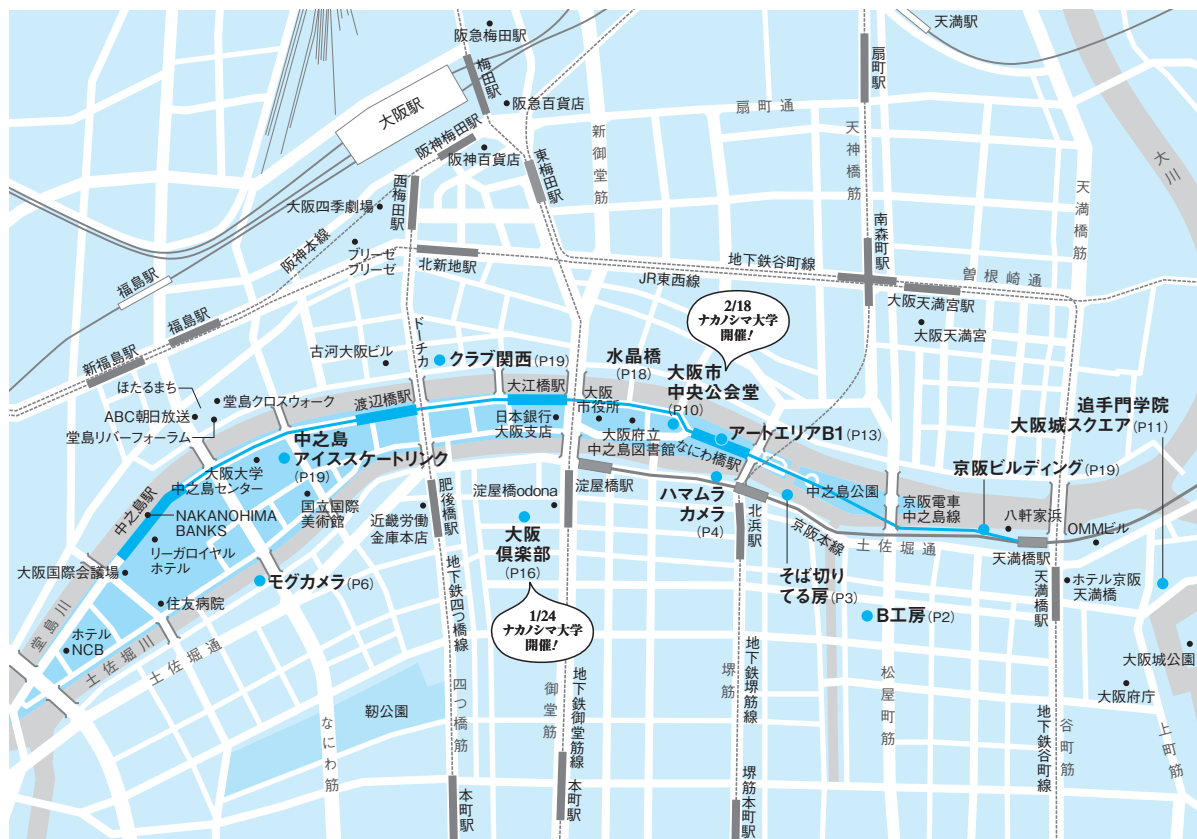
ローズヴィレッジくずはII

その先へとつながっていく街づくりを
鉄道やバスなどの交通インフラをはじめ不動
産、流通、レジャーなどのグループ力を結集し、
「ローズタウンシリーズ」に代表される大規模な街
づくりを推進する京阪の住宅地開発。街びらきから
まもなく20年目を迎える「京阪東ローズタウン」は、
生活機能の充実とともに賑やかさを増し、子ども
たちが主役のコミュニティ活動が活性化しているなど
街全体が着実に成熟しています。



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

京阪電車関連：京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋

書店：ブックファースト梅田店／旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／旭屋書店 堂島地下街店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ビル
トンプラザ店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／天牛書店 大江橋店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 天満橋店／紀伊國屋書店 京橋店／隆祥館書店／なんば書店カ
ルチャーコーナー

公共施設・大学関連施設ほか：大阪市中央公会堂／府立中之島図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪市立中央図書館／大阪歴史博物館／大阪城天守閣／大阪狭山市立図書館／奈良
県立図書情報館／大阪国際会議場／市立住まい情報センター／大阪商工会議所／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪企業家ミュージアム／味の素 食のライブラリー／朝日カルチャー
センター／大阪大学中之島センター／大阪大学本部／大阪大学21世紀構想館／摂南大学地域連携センター／慶應大阪リバーサイドキャンパス／追手門学院 大阪城スクエア／追手門学院 大
手前センター／関西学院大学大阪梅田キャンパス／専門学校中の島美術学院／大阪工業技術専門学校／ろうきんギャラリー心斎橋／大阪倶楽部／中央電気倶楽部／芝川ビル／N4タワーマ
ンションパビリオン／ホテルNCB／ABC朝日放送／大阪フィルハーモニー会館

店舗・医院など：江戸前鰻料理 志津可／ラ・クッカーニャ／アリアスカ マーブルトレ／MANGUEIRA／Girond's JR／じろう亭／ミニジロー／黒門さかえ／花かつ／ティーハウスムジカ／MJB
珈琲／平岡珈琲店／喫茶SAWA／アンドール本町本店／あじさい／Cato Bookshop and café／EXPO CAFE／Loop A／喫茶カンターロ／BAR THE TIME 天神／タバーン・シン普森／
パストラーレ／LES LESTON／大西洋服店／上町貸自転車／ザ・メロディ／カセッタ／セブイレブン大阪証券取引所店／吉田理容所／たまがわ鍼灸整骨院／宮崎歯科／心斎橋山田兄弟歯
科／東郷歯科医院／ネイルサロンスワンナ

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしております。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 天満橋サウন্ズ。

関係者の間では「天満村」で通るほど、楽器工房や楽器商が集まる天満橋。
音楽の街として盛り上がりつつある天満橋の店・人・イベントを大特集。

●『月刊島民』vol.31は2011年2月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)

編集・発行／月刊島民プレス

若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)

松本 創 大迫 力(編集集団140B)

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階

Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341

制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)

デザイン／山崎慎太郎

表紙イラスト／奈路道程

印刷／佐川印刷株式会社

もうひとつ先の
京都に会いたくて。



石塀小路（祇園四条駅下車）
楠葉けい子（大学生）

